

特別の教科 道徳 第3学年 学習指導案

1 主題名 「公共の場での心構え」 C- (12) 社会参画、公共の精神

2 資料名 「自分・相手・周りの人」 出典「あすを生きる3」（日本文教出）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値観について

今までにも「公共の場」について、それぞれのあるべき言動や服装などを考えてきた。今回、中学校卒業を4か月後に控え、改めて社会の中で個人としてどのように関わっていくべきなのかについて深く考えさせたい。このことをとおして、社会的な役割と責任を果たすことの重要性を理解させ、誰もが安心して生活できる社会をつくっていこうとする態度を育成したい。

(2) 教材について

この教材は、公共の交通機関などで目にするマタニティーマークへのさまざまな意見を、新聞記事やアンケート統計で示したものについて考えを深めるものである。マタニティーマークを付けている人の気持ちを考え、安心して生活できる社会にするために、公共での心構えを理解させ、さらによりよい社会の実現のために、一人ひとりが積極的に行動することの大切さを考えさせることのできる教材である。

(3) 生徒の実態について

学校行事や職場体験等を経験して、集団の中の一員であることの自覚や責任、より良い社会を築こうとする態度を育成してきた。しかしその反面、他者への配慮が欠け自己中心的な言動となってしまうことも少なくなかった。今回はマタニティーマークをとおして妊娠婦を思いやる気持ちが必要不可欠であるということをもとに、公共での心構えを考えることがよりよい社会につながることを理解させたい。

4 年間指導計画における位置づけ

これまでに学年の重点項目であるCの柱の題材については、「ともに生きる社会の実現」として『No Chart, but a Chance!』、「法やきまりの意義」として『二通の手紙』に取り組み、考えを深めた。今回の「公共の場での心構え」では、中学校卒業を4か月後に控えていることを踏まえて、改めて自分たちは社会の中でどのように関わっていくべきなのかを考えていこうとする、時期として適切な題材である。

5 本 時

(1) 目 標

- ①公共の場での心構えを理解し、積極的によりよい社会の実現のために自ら参画しようとする発言や態度を養う。
- ②教材提示によって、社会の課題に気付き、安心して生活できる社会にするために、自分に何ができるかを考えさせる。

(2) 話し合い活動での工夫（感染症予防も含む）

- ①柔軟かつ活発な意見交換ができるように、少人数の4人組で話し合いをさせる。
- ②感染症予防のため、フェイスシールドを着用する。

(3) 展開

時間	主な学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◆評価の観点
導入 10分	<p>1 マタニティーマークについて知る。</p> <p>発問：マタニティーマークを知っているか。また、このマークを付けている人がいたらどうするか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている ・知らない ・マタニティーマーク ・席を譲る。 	<p>○拡大したマークを提示し、本時のねらいを考察させる。マークを理解してもらうことも含めて考えさせる。</p> <p>◆マタニティーマークについて関心をもてたか。</p>
展開 30分	<p>2 教材を読み、考える。</p> <p>発問：マタニティーマークを付けている人の気持ちを考えてみよう。</p> <p>発問：アンケートに対する「嫌な顔をされた」という回答について、自分はどのように思うだろう。 (*4人組での話し合い)</p> <p>*班での発表</p> <p>発問：よりよい社会生活を築き上げるためにどのような行動がとれるか考えよう。 (*4人組)</p> <p>*班での発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立っているのは辛い。 ・おなかをぶつけないように赤ちゃんを守りたい。 ・悲しい。たいへんさを理解されない。 ・混雑している電車に乗るのはやむを得ない理由があるはずだ。 ・少子化だからみんなで赤ちゃんを守るべき。 ・「どうぞ」と一言かけて席を譲る。 ・階段など荷物を持ってあげる。 ・なるほど、そんな意見があったか。 ・自分が気が付かない問題に気づくことができた。 	<p>○妊娠婦の気持ちを理解させ周囲の人の気持ちについても考えさせる。</p> <p>○素直な意見を出させる。男子には意図的に指名するなどして意見を出させる。</p> <p>○アンケートから、肯定的な意見も多いことを理解させる。</p> <p>○一人一人が協力して安心し生活できる社会をつくるために大切なことを考えさせる。</p> <p>◆発問に対して自分なりの意見を持ち友人の意見もしっかり聞くことができるか。</p> <p>○周りで見かけるさまざまなマークを参考に、よりよい社会を築き上げるために各当事者の気持ちや自分にできることを考えさせる。</p> <p>○友達の意見からの気づきを大切にする。</p> <p>◆活発な話し合い活動ができる多面的、多角的にとらえることができたか。</p>
終末 10分	<p>3 さらに広げて考える。</p> <p>発問：周りで見かけるさまざまなマーク以外にどのようなマークがあるとよいと思うか。 (*4人組)</p> <p>*班での発表</p> <p>4 本日の授業の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプマークなど身体の不自由な人を配慮するマークの名前を言う。 ・ ・ワークシートに記入し、授業の振り返りをする。 	<p>○妊娠婦以外で配慮すべきことを考えさせる。</p> <p>○さまざまなマークについて知り、理解を深めさせる。</p> <p>◆授業を振り返り、今後よりよい社会を築いていくうとする態度が見られたか。</p>

(4) 板書計画

板書例	公共の場での心構え
○このマークは? ・マタニティマーク	「自分・相手・周りの人」
班の意見	○つけている人の気持ち ・立っているのが辛い。 ・お腹をぶつけない。赤ちゃん を守る。

(5) 授業観察の視点

教材提示によって、社会の課題に気付き安心して生活できる社会にするために自分に何ができるかを考えさせることができているかどうか。また、話し合い活動では活発な意見を出し、他人の意見も積極的に受容しようとしているかどうか。